



屋内60mトラック (写真提供：Nacasa&Partners)



パラリンピア・トレーニング風景



東側外観



新豊洲ブリリア ランニングスタジアム

選評

新豊洲ブリリアランニングスタジアムは、パラリンピアを目指す障害者トップアスリートのための六〇メートルトラックと、競技用義足の開発・調整機能を併設した、屋内トレーニングセンターのプロジェクトである。本施設の立地場所は、江東区豊洲地区の埋立地の、護岸に整備された親水歩道の隣に位置しており、トップアスリートのみならず地域の人々も利用することのできるものとなっている。建築としては、一〇〇メートルの長さのヴォールト形状の構造体が六〇メートルトラックの上に架かるというも

のである。主要構造部は鉄筋コンクリート造の片持ち柱が下部構造をなしており、その上部に鉄骨による軒桁にユニット化された集成材+鉄骨フレームとETFE膜のユニットを並べてゆき、全体のヴォールト形状を作り出している。ETFEは二重構造形式となっていて、コンピューター制御で二重膜内に空気を送り込んでおり、気候変動に合わせて内圧を変化させることが可能になっている。ETFEという膜素材は、日本国内では十分に紹介されていない新素材ではあるが、この建物ではETFEの新しい個性と長所を活用することによって、軽快な構造体、明るい室内空間を作り出すことに成功している。構造体の軽やかさ、人口照明を必要としない明るさなどは、構法・意匠の両面で評価された。また、環境的には、両長手側面にルーバーを設けて、常時風が抜ける状態を確保し、また最上部に換気装置を設けることで排熱効果をも持ち、激しい室内運動にも対応可能な室内環境を作り出しており、環境計画的にも評価され

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計・施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2018年で59回を数えます。

< 2018年 第59回 BCS賞受賞作品 > 太田市美術館・図書館 高知県立高知城歴史博物館 コープ共済プラザ 新豊洲 Brillia ランニングスタジアム すみだ北斎美術館 洗足学園音楽大学 Silvermountain & Redcliff (e-cube) 空の森クリニック 高崎アリーナ 多治見市火葬場 華立やすらぎの社 立川市立第一小学校 柴崎学習館 柴崎図書館 柴崎学童保育所 デンソーグローバル研修所 保養所「AQUAWINGS」日本無線先端技術センター パナソニック スタジアム 吹田 羽田クロノゲート 益子町地域振興拠点施設「道の駅ましこ」 [特別賞]名駅一丁目1番計画 (JRゲートタワー、JPタワー名古屋)

建築主 より

最適なスポーツ空間でお役に立ちたい

BCS賞は施設が使われてから1年以上が経過しないと選考対象にならないとのこと、建築と健全な施設運営が相成って頂ける賞なので本当に嬉しく光栄に思っております。現在、この施設はランニング教室をはじめ、障害のあるなしにかかわらず多くのアスリートにご利用頂いています。今後は、東京オリンピック・パラリンピックに向け、益々盛り上がっていきと思いますが、もっともっと大勢の方

が、木のやさしさと自然な光が入るETFE 屋根が作り出す、日本唯一のこの施設を体感し、喜んで頂ければと切に願っております。そして、本賞を頂いたことで、本施設の実現に向けてご協力頂きました、東京建物様、東京ガス用地開発様、運営者の皆様方に良い報告が出来たと思っております。弊社はこの施設で得られた経験をもとに、更に最適なスポーツ空間をつくれるように努力してまいります。



太陽工業株式会社
膜やR&Dセンター
インキュベーションオフィス
課長
名波 紳二
Shinji Nanami

設計者 より

社会貢献型建築とは



有限会社E.P.A.
環境変換装置建築研究所
取締役
武松 幸治
Yukiharu Takematsu

この施設は、事業主である太陽工業株式会社、ネーミングライツ協賛企業の東京建物株式会社、その他様々な協力企業の御支援で実現しています。
2020年を迎える中、障害者アスリートの支援する環境が国内にはなく、その実現に向けて取り組んだ計画になります。「走ること」をテーマに障害のある方々に限らず、様々な人々との新たなコミュニティの形成の場としても貢献しています。限られた予算の中で

新たな技術を採用し、環境にも配慮したこの施設は、今後民間の力で実現すべき社会貢献型の建築のスタンダードになって欲しいと考えています。
この施設の計画を通じて、本来あるべき建築設計事務所の姿を見つけ出すことが出来ました。設計の枠を超え総合的に俯瞰した視野で様々なプロジェクトを考察し、新たなプロジェクトに取り組み続けたいと思います。

施工者 より

始まりは1本の電話から

スポーツ施設を企画しているので参加しないかとの1本の電話をE.P.A.環境変換装置建築研究所の武松代表から2016年3月にいただき、太陽工業様、用地所有者の東京ガス様との打ち合わせが翌4月から開始されました。着工に向けて建物申請打ち合わせと並行して、5月からは木骨トラス接合金物の新規製作の打ち合わせ、屋根材のETFE、木骨トラスの仮組など、建築施工に長年携わってきた私にも初めての経験でした。施工中はE.P.A.、

KAPの設計担当者、太陽工業の関係者に助けられ、東京ガス様、運営担当者様に満足していただける建物が完成しました。
今回のBCS賞も様々な立場の関係者の融合を評価され、また幅広い用途で活用されている建物に、1本の電話から施工会社として参加できたことを大変名誉に感じております。東京オリンピック・パラリンピックに向け、ますます活用していただくことを願っています。



中央建設株式会社
専務取締役(現場責任者)
伊藤 直治
Naoharu Ito



南側外観(夜景) (写真提供: Nacasa&Partners)

通常の公共事業と違い、企画者、建築主、管理運営者、設計者、施工者、施設利用者等のプロジェクト関係者の関係性がたいへん興味深く、関係者全員が一体となって建築の実現に向けて邁進していった点は、高く評価された。
さらには、プロジェクトを支える理念でもある、あらゆる人々が集まり交流し、切磋琢磨できる公共空間という、喚起力のある未来像を提示している点と、その理想



ETFE フィルム張込み開始

郷に向かって、設計・施工・運営が一体となって計画を実現した点が、大変高く評価された。トップアスリートや、トップアスリートを目指す若者たちが集う場でありながら、地域の人々にも開放されたこの施設は、未来のアスリートを支えるだけでなく、これから成長し成熟していくであろう新豊洲地区の核となる潜在的な魅力を兼ね備えていると評価された。
【選考委員】
西沢立衛・堀場 弘・田中隆吉



義足調整室ハイブリッドCLT使用

計画概要

建築主：太陽工業(株)

設計者：(有)E.P.A環境変換装置建築研究所
(株)KAP
太陽工業(株) 設計本部東日本設計部

施工者：中央建設(株)

所在地：東京都江東区豊洲 6-4-2
竣工日：2016年11月30日

敷地面積：4,846㎡
建築面積：1,746㎡
延床面積：1,713㎡

階数：地上1階
構造：鉄骨造、鉄筋コンクリート造